

# 【改訂】 やまなし教員育成指標

教員として必要な専門性を重点項目ごとに整理

## 山梨県が求める教員像

ICTを活用し、多様な子供たちに個別最適な学びと協働的な学びを実践しながら、「自ら考え行動し、他者と協働していく児童生徒」を育てる教員

### 教員として必要な素養（全ステージ）

豊かな人間性と人権意識 優れたコミュニケーション能力 崇高な使命感と責任感  
法令の遵守 高い倫理観と規範意識 常に学び続ける力 **ふるさと山梨の未来を担う人材を育成する力**

ステージ	採用時	第1ステージ	第2ステージ	第3ステージ
		実践力養成期	専門性充実期・協働性養成期	指導力・協働力完成期
各ステージにおいて目指す姿		実践力を磨き、教員としての基礎を築くとともに、資質能力の向上を目指している	専門性を高め、ミドルリーダーとして組織を活性化させるとともに、資質能力の向上を図っている	豊富な経験と広い視野から指導力・協働力を発揮して学校運営を支えるとともに、後進を育成している
<b>【重点項目】 教員主体の授業から児童生徒主体の授業への転換</b>				
学習指導（授業実践）	学習指導要領における趣旨を把握し、各教科等の目標や指導内容、評価方法を理解している。	<b>学習者中心の授業</b> を実践し、「主体的・対話的で深い学び」の実現に取り組んでいる。 <b>（例：よのなか科など）</b>	「 <b>個別最適な学び</b> 」と「 <b>協働的な学び</b> 」の一体的な充実に向けた授業を実践している。	<b>学びに向かう力の育成</b> や人間性を涵養する授業の実践において、指導的役割を果たしている。
学習指導（学習評価・授業改善）	各発達段階における心理的特性を把握し、生徒指導の重要性を理解している。	<b>指導と評価の一体化</b> に取り組むとともに、児童生徒の興味・関心を引き出す教材研究や授業改善を行っている。	適切な評価を行うとともに、 <b>学習者中心の授業</b> に向けた改善に取り組んでいる。	適切な評価を基にした授業改善において、指導的役割を果たしている。
生徒指導（学級経営）	学校におけるICTの活用	児童生徒一人一人の <b>特性を理解</b> し、よりよい人間関係を築く土台となる <b>集団づくり</b> を行っている。	ICTや情報・教育データを適切に活用し、 <b>校務の効率化</b> 及び児童生徒の学習等の改善を図っている。	自校の「育てたい児童生徒像」を意識した <b>集団づくり</b> において、指導的役割を果たしている。
ICTや情報・教育データの利活用	各発達段階における心理的特性を把握し、生徒指導の重要性を理解している。	授業や校務等にICTを活用し、児童生徒の情報モラルを含めた <b>情報活用能力を育成</b> する実践を行っている。	ICTや情報・教育データを適切に活用し、 <b>校務の効率化</b> 及び児童生徒の学習等の改善を図っている。	ICTや情報・教育データの利活用により、自校の課題を明確にし、改善に向けて指導的役割を果たしている。
<b>【重点項目】 全ての子供の学ぶ機会やチャンスを潰さない教育</b>				
生徒指導（児童生徒理解）	特別な配慮や支援を必要とする児童生徒について、合理的配慮の提供や組織的な対応の必要性を理解している。	日々の声かけや面談により、 <b>児童生徒の気持ちに寄り添い</b> 、信頼関係を構築している。	同僚と協働し、 <b>観察や情報収集を通じて児童生徒の理解を深め</b> 、課題解決に向け取り組んでいる。	児童生徒の課題を多面的に把握し、課題解決に向けて組織的な取組を推進している。
生徒指導（いじめ等への対応）	特別な配慮や支援を必要とする児童生徒への対応	<b>いじめ等問題行動の未然防止・早期発見</b> に努め、管理職や関係職員に報告・相談し、早期に対応している。	いじめ等問題行動の未然防止や解決に向けた対処法を身に付け、協働して対応している。	いじめ等問題行動の未然防止や解決に向け、 <b>関係機関と連携しながら、組織的に対応</b> している。
特別支援教育	不登校や子供の貧困、ヤングケアラー、外国籍児童生徒等、児童生徒を取り巻く多様な背景があることを理解している。	児童生徒の実態を把握し、 <b>合理的配慮の提供</b> や教育的ニーズに応じた適切な指導を実践している。	特別支援教育の専門性を高め、同僚と協働し効果的な指導を行っている。	<b>医療や福祉等の関係機関との連携・協働</b> を推進し、組織的な校内支援体制の充実を図っている。
特別な配慮や支援を必要とする児童生徒への対応	<b>専門性に関する項目</b>			
学習指導（授業計画）	学習指導要領における趣旨を把握し、各教科等の目標や指導内容、評価方法を理解している。	児童生徒の実態を理解し、学習指導要領の趣旨を踏まえ、ねらいを明確にした指導計画を立てている。	児童生徒の実態に応じて、各教科等の専門的知識を生かし、指導計画を立てている。	教科等の高度な専門性を生かした指導計画の立案において、指導的役割を果たしている。
生徒指導（道徳教育）	各発達段階における心理的特性を把握し、生徒指導の重要性を理解している。	児童生徒の発達段階に応じて、道徳性を高める指導を行っている。	道徳性の高まりや変容を適切に見取り、同僚と共有し、指導に生かしている。	自校の教育活動全体を通じて、児童生徒の道徳性を高めるよう組織的な取組を推進している。
生徒指導（人権教育）	各発達段階における心理的特性を把握し、生徒指導の重要性を理解している。	人権を尊重することの意義や必要性を認識し、児童生徒一人一人を尊重した指導を行っている。	<b>多様性を受容</b> し、豊かな人間関係を築くための人権教育を同僚と協働し推進している。	人権が尊重された学校づくりをするために、家庭・地域と協働しながら組織的な取組を推進している。
生徒指導（キャリア教育）	自校の教育目標と教育課程を理解し、効果的な指導の実現を図っている。	キャリア・パスポートを活用し、将来の在り方や生き方を考えさせる指導を行っている。	<b>児童生徒が自分らしい生き方を実現するための力</b> を、同僚と協働し育成している。	地域や産業界と連携し、学校全体による組織的な取組において、指導的役割を果たしている。
学校運営（教育課程）	自校の教育目標と教育課程を理解し、効果的な指導の実現を図っている。	自校の教育目標達成に向け、 <b>カリキュラム・マネジメント</b> に基づいた教育課程の編成・実施に参画している。	自校の教育目標達成に向け、 <b>カリキュラム・マネジメント</b> に基づいた教育課程の編成・実施に参画している。	自校の実態に応じて改善を図ることや、「 <b>社会に開かれた教育課程</b> 」の編成・実施において、指導的役割を果たしている。
学校運営（連携・協働）	自校の教育目標と教育課程を理解し、効果的な指導の実現を図っている。	自らの役割を理解し、同僚と協働しながら、その責任を果たしている。保護者等と望ましい信頼関係を構築し、課題に対応している。	ミドルリーダーとして同僚と協働し、積極的に学校運営に参画している。関係機関と連携・協働し、課題解決に向け取り組んでいる。	チームとしての学校という視点をもち、連携・協働による課題解決をリードするとともに、効果的なOJTを推進している。
学校運営（学校安全）	自校の教育目標と教育課程を理解し、効果的な指導の実現を図っている。	学校安全計画や危機管理マニュアル等を理解し、安全管理に取り組んでいる。	学校安全計画や危機管理マニュアル等に基づいた取組を推進し、その改善に努めている。	安全管理に精通し、学校安全計画や危機管理マニュアル等の改善が推進されるよう、指導的役割を果たしている。
学校運営（働き方改革・業務改善）	自校の教育目標と教育課程を理解し、効果的な指導の実現を図っている。	校務に積極的に参加するとともに、 <b>勤務時間を意識した働き方</b> を行っている。	働き方改革に積極的に取り組み、ミドルリーダーとして学校運営の持続的な改善を支えている。	<b>学校組織マネジメント</b> の視点から、組織全体を俯瞰し、業務の効率化の具体的な提案と推進を図っている。
自ら学ぶ姿勢	自己の課題を認識し、必要な <b>研修</b> に主体的に取り組むとともに、 <b>広い視野をもって自己研鑽</b> を積んでいる。	自己の課題を認識し、必要な <b>研修</b> に主体的に取り組むとともに、 <b>広い視野をもって自己研鑽</b> を積んでいる。	ミドルリーダーとして、積極的に <b>研修</b> に参加し、その成果を同僚と共有して、自校の教育活動全体に生かしている。	自校の教育課題に対応した <b>研修</b> を企画・立案し、チームとしての学校の組織力を高める取組を推進している。

教員として必要な専門性

※ 第1ステージは採用から5年目まで、第2ステージは6年目～20年目まで、第3ステージは21年目～退職までを目安としてイメージしている。  
令和8年3月一部改訂